

編集後記

謹賀新年。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は日米ともに政権が交代し、社会的な変化の大きな年でした。本年も厳しい景気や雇用情勢からのスタートですが、将来への希望を持てるよう、よい変化を呼び起こす年にしたいものです。

さて、最初に残念なお知らせがございます。当学会副会長の寺崎隆行先生が、昨年 12 月 8 日にお亡くなりになりました。寺崎先生は、当学会の設立当初から、副会長としてご指導を賜りました。改めて感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

一方で、新たに山形和美先生、川地美子先生、それから原不二子氏の三人の名誉会員をお迎えすることになりました。山形先生は筑波大学名誉教授、川地先生は元杏林大学教授で、お二人とも英文学研究で著名な先生です。本学会誌 13 号では『能リア王』公演に関してお二人にご寄稿いただきました。また、原氏は尾崎行雄氏のお孫さんで尾崎行雄記念財団の常務理事、そして国際会議運営・通訳の"Diplomatt" の代表取締役です。本学会誌 13 号掲載の上田会長講演「能・狂言の楽しみ方」で紹介されています。なお、その夫君の Mr. Martin Blakeway に編集委員をお願いしました。

上田会長は上記の講演で「人生の本舞台は常に将来にあり」という尾崎行雄翁のことばを引用されましたが、翁がワシントン市に三千本のさくらを贈ったのが 1912 年で、2012 年がその百年記念ということで、上田会長が新作能『ポトマック桜』台本を作成し、ワシントンで公演を計画されています。

時が経つのは早いもので、国際融合文化学会は今年で設立から 10 周年となります。残念ながら今も世界に紛争は絶えませんが、先日ハイチで起きた地震災害では、世界各地から民族や国境の垣根を越えて救援物資が現地に届けられました。「助け合おう」という気持ちに、民族や国境の垣根はありません。国際融合文化学会は、今後とも、助け合う気持ち、平和を願う気持ちをはぐくみ、お互いに善き世界を語り合える場でありたいと思います。

なお、本誌の前号第 13 号では、『能・リア王』再々演の成功をうけて、それに関する論文・エッセイなどが満載されましたが、今号は元に戻って、幅広い内容の論文やエッセイを掲載しております。本誌の内容編集に関し、特にエッセイには多様な内容のものを掲載したいとの上田会長のご意向です。皆さん、お気軽に投稿なさってください。次回原稿締め切りは 5 月末くらいの予定ですが、決まり次第ホームページでお知らせします。（編集子）

『融合文化研究』第 14 号

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会 (ISHCC) 事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2010 (平成 22) 年 1 月 31 日 電子ファイル版発行 (ホームページ公開)

Published by: International Society for Harmony & Combination of Cultures (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: ueda@gssc.nihon-u.ac.jp Tel: 0557-82-1411(Ueda)
